

# e-ラーニングを活用した成人学習の開発

—京都府における生涯学習e-ラーニングの可能性—

西岡正子

[抄録]

2002年11月に京都府生涯学習審議会の決定に基づき京都生涯学習推進ネットワークが発足した。このネットワークは府・市町村、各教育委員会及び、大学、専修学校各種学校、社会教育関係団体、及び民間カルチャーセンター等で119の団体により成り立っている。

本論文はネットワークが京都府北部の生涯学習の機会平等を目途とし、高度情報化プロジェクトとしてe-ラーニングを開発したその経過と結果を明らかにしたものである。また、京都府におけるe-ラーニングに対する意識・関心の現状をアンケート調査及びインタビューによって得たデータを分析し、今後の生涯学習e-ラーニングの可能性を探るものである。

キーワード：京都府生涯学習, e-ラーニング, e-ラーニングへの関心,  
e-ラーニングの実体

## I. 京都府におけるe-ラーニングの開発

### 1. 京都生涯学習推進ネットワークの立ち上げとプログラムの開発

生涯学習の進展と充実を目指して国が生涯学習審議会を立ち上げたのと同じ1990年に、京都府もいち早く京都府生涯学習審議会を発足した。この京都府生涯学習審議会において、1996年5月には作業部会を立ち上げ、京都府全域における調査をもとに今後の生涯学習の充実に向けた計画をつくることとした。作業部会は、1997年3月に開催された第6回京都府生涯学習審議会において生涯学習機関・組織および生涯学習団体のネットワークを作る必要性を提示した。その後の継続的な調査の結果、作業部会は「生涯学習中核組織の設立」の報告書を作成し、1999年12月の第7回京都府生涯学習審議会において、その設立が承認された。

この報告書は、次の2点を強調している。第一に京都府は南北に長い自治体であり、高等教育機関や他の教育に関わる組織・機関が南部に多く偏在していること。第二に、京都府内の各教育委員会、知事部局、さらに高等教育機関を含む教育機関・組織が連携を取らず学習機会を提供していること。この2点を鑑みると、北部にも平等に、かつ府全体に効率的に生涯学習機

会を提供するためには、府内の教育機関・組織のネットワークを作る必要があるという提案である。この提案は、2002年11月25日に京都生涯学習推進ネットワークの発足という結果をもたらした。

京都生涯学習推進ネットワークは116の団体によって結成された。2011年9月現在は119でありその内訳は、府・市町村、各教育委員会等37、大学等45、専修学校各種学校等17、社会教育関係団体等12、民間カルチャーセンター等6である。（表1）

京都生涯学習推進ネットワークには生涯学習推進委員会が作られ、3つのプロジェクトを開始した。その一つが、高度情報化プロジェクトであり、e-ラーニングを活用した学習機会を提供するというものである。その他二つは、キャリア教育開発プロジェクトと評価認証プロジェクトである。

高度情報化プロジェクトの今日までの発展は、大きく二段階に分けることができる。まず最初の段階は、一方向性の生涯学習講座の配信である。第二段階は、一方向性に加えて双方向性のe-ラーニング塾の配信を始めたことである。

2004年5月18日に高度情報プロジェクト委員会が発足し、第一段階の一方向性の学習講座配信の検討がなされた。その結果、まだ多くの府民が複雑なパソコンの操作に精通していない

【府・市町村等】（37）	【大学等】（45）	【専修学校各種学校等】（17）	【社会教育関係団体等】（12）
京都府市長会 京都府町村会 京都府市町村教育委員会連合会 綾都市 京都市教育委員会 宮津市 福知山市教育委員会 亀岡市 舞鶴市教育委員会 長岡京市 綾部市教育委員会 京田辺市 宇治市教育委員会 京丹波市 宮津市教育委員会 木津川市 亀岡市教育委員会 京丹波市 城陽市教育委員会 伊根町 向日市教育委員会 与謝野町 長岡京市教育委員会 八幡市教育委員会 京田辺市教育委員会 京丹波市教育委員会 京田辺市教育委員会 南丹市教育委員会 大山崎町教育委員会 久御山町教育委員会 井手町教育委員会 宇治田原町教育委員会 木津川市教育委員会 精華町教育委員会 京丹波町教育委員会 伊根町教育委員会 与謝野町教育委員会 相楽東部広域連合 教育委員会	公益財団法人 大学コンソーシアム京都 池坊短期大学 大阪成蹊大学芸術学部 大谷大学 大谷大学短期大学部 華頂短期大学 京都医療科学大学 京都外国語大学 京都学園大学 京都華頂大学 (10) 京都教育大学 京都経済短期大学 京都光華女子大学 京都光華女子大学短期大学部 京都工業繊維大学 京都嵯峨芸術大学 京都嵯峨芸術大学短期大学部 京都産業大学 京都情報大学院大学 京都女子大学 (20)	京都市立芸術大学 京都精華大学 京都西山短期大学 京都造形芸術大学 京都大学 京都織大学 京都ノートルダム女子大学 京都府立大学 京都府立医科大学 京都文教大学 (30) 京都文教短期大学 京都薬科大学 種智院大学 成美大学 成美大学短期大学部 聖母学院短期大学 同志社女子大学 同志社大学 花園大学 佛敎大学 (40) 平安学院大学 舞鶴工業高等専門学校 明治国際医療大学 立命館大学 龍谷大学	社団法人 京都府専修学校各種学校協会 池坊文化学院 藤千家学園茶道専門学校 大原簿記法律専門学校京都校 学校法人大和学園 京都YMCA国際福祉専門学校 京都外国語専門学校 京都建築専門学校 京都建築大学校 京都コンピュータ学院 京都伝統工芸大学校 京都動物専門学校 京都美容専門学校 京都理容美容専修学校 京都料理専修学校 有樹和裁専修学校 (専) Y I C 京都工科大学校 京都市 P T A 連絡協議会 京都府 P T A 協議会 京都府公民館連絡協議会 京都府生涯学習文化施設 ボランティア連絡会 京都府男女共同参画センター 京都府図書館等連絡協議会 京都府立高等学校 P T A 連合会 京都建築会婦人会 財団法人京都 S K Y センター 財団法人京都府少年教育振興会 特定非営利活動法人 きょうと N P O センター 京都市地域女性連合会 【民間カルチャー等】（6） 京都民間カルチャー事業協議会 朝日カルチャーセンター-京都 N H K 京都文化センター 京都新聞文化センター 朝京都放送カルチャーセンター ゼルバルク京都カルチャールーム
【京都府】（2） 京都府 京都府教育委員会			【民間カルチャー等】（6） 京都民間カルチャー事業協議会 朝日カルチャーセンター-京都 N H K 京都文化センター 京都新聞文化センター 朝京都放送カルチャーセンター ゼルバルク京都カルチャールーム
3 10 24 2	20	25	17 12 6 119

表1 京都生涯学習推進ネットワーク 参画団体名簿注①

ということから、様々な年齢層および、インターネットを通じた学習に不慣れな人々にも学習の機会を提供するために以下の4点を含むプログラムを作ることとなった。

第一は、コンピューターのキー操作なしに画面を見て学べるようにすることである。第二は、第一のキー操作の使用を避けて、ビデオや、写真、解説を見たり聞いたり出来るようにすることである。第三は、リベラルアーツを中心としたプログラムを作ることである。第四は、面接授業を可能な限り取り入れたプログラムを作ることすなわちブレンディッド学習を取り入れることである。

パイロットプロジェクトは、2004年7月10日から開始された。その後いくつかのパイロットプログラムを配信の後、京都生涯学習推進ネットワークは、2005年から2009年までに97のプログラムを配信した。一つのプログラムは10分～60分である。これらのプログラムは2009年においては以下の6つのカテゴリーに分類されている。

- |                      |                        |
|----------------------|------------------------|
| 1. 地域・社会コース：3コース     | 2. 教養・文化コース：54コース      |
| 3. 技能・技術コース：7コース     | 4. 暮らしと健康コース：20コース     |
| 5. 環境・自然ふれあいコース：4コース | 6. スポーツ・体力づくりコース：10コース |

これらのコースは「生涯学習講座」と名付けられた。

現在は、以下の8つのカテゴリーに分類されている。

- |                  |               |
|------------------|---------------|
| 1. 京都府発見講座：33コース | 2. 趣味の講座：2コース |
| 3. 教養講座：25コース    | 4. 実学講座：15コース |
| 5. スポーツ講座：10コース  | 6. 人間講座：9コース  |
| 7. 芸術講座：6コース     | 8. 生活講座：20コース |

インターネット放送局生涯学習講座は、2006年には財団法人高度映像情報センター（AVCC）から「公共ホームページ good site」に選出されている。<sup>注①</sup>

第二の段階は双方向性の生涯学習講座の開始である。それらは2007年に始められた。そのほとんどは双方向性のインターネット講座に加えて、面接授業やフィールドトリップを加えたブレンディッド学習である。これらの講座には、登録が必要であり、一部料金を支払わなければならないものもあるが、ほとんどが無料で提供されている。

これらは「京都eラーニング塾」と名付けられた。2007年10月2日に京都府スポーツ生涯学習室が「健康トレーニングスクール」をパイロットコースとして配信した。クラスサイズは50～150人である。その後のプログラムは大きく3つのグループに分けることができる。まず第一グループは各ネットワークのメンバーである各市、各大学が提供する8つのコースである。

[京都府：3コース]

1. 健康トレーニングスクール I 2007年10月2日～2007年10月31日

受講者 47 人 体育館における直接指導も実施。参加費 500 円

2. 健康トレーニングスクールⅡ 2007 年 12 月 4 日～2008 年 3 月 31 日

受講者 40 人 無料

3. 古文書学入門 2008 年 1 月 23 日～2008 年 3 月 31 日 受講者 117 人

面接授業の博物館入場料のみ有料

[宇治市：2 コース]

1. e-ラーニング園芸 2007 年 10 月 18 日～2008 年 2 月 29 日 受講者 159 人

面接授業の博物館入場料のみ有料

2. e-ラーニングで学ぶ宇治山城の民話 2008 年 3 月 4 日～2008 年 3 月 31 日

受講者 121 人 無料

[城陽市：1 コース]

1. 城陽の 2 万 3000 年の歴史 2007 年 11 月 1 日～2008 年 3 月 31 日

[京都文教大学・NPO 宇治市させやま：1 コース]

1. e-ラーニングで学ぶ源氏物語－源氏の世界に関する 4 講座

2008 年 2 月 4 日～2008 年 4 月 18 日 受講者 109 人

スクーリング参加者 50 人 スクーリング料 1500 円

[田辺市：1 コース]

1. 田辺市の物語 2007 年 4 月 5 日～2008 年 3 月 31 日 受講者 127 人 無料

上記 8 コースの総受講者数は 803 人、登録者数（ID とパスワードを取得した者）は 606 人であった。

第二のグループは源氏物語に関する 3 コースである。2008 年が源氏物語千年紀であることから、京都府は 100 万円を源氏物語に関する e-ラーニングに拠出した。3 大学が中心となって、源氏物語に関するコースを作成した。費用の不足分は各大学が負担をしている。

1. 佛教大学、京都府 1 コース 「e-ラーニングによる源氏物語「光源氏と紫式部」」

2008 年 11 月 1 日～2008 年 11 月 31 日 e-ラーニング受講者 225 人

スクーリング参加者 31 人 3 つの e-ラーニング授業と 1 つのスクーリング

スクーリングにおいては、参加者は源氏物語ゆかりの地を訪問。

2. 京都文教大学、NPO 町づくりネット宇治、京都府 1 コース

「源氏物語のベストパーツ e-ラーニングで学ぶ宇治十条」

2008 年 10 月 31 日～2009 年 2 月 28 日 e-ラーニング参加者 231 人

3 つの e-ラーニング授業と 1 つのスクーリング スクーリング参加者宇治 39 人 丹波 20 人

（丹波のスクーリング参加者は TV 会議システムによる参加）スクーリング受講料 500 円

3. 京都産業大学、NPO 町づくりネット宇治、京都府 1 コース

「eラーニング「源氏物語－ベストセラーである秘密－」」

2009年1月26日～2009年3月31日 受講者164人

3つのeラーニング授業のみ

第三のグループは京の郷土料理である。このプログラムを作るために、京・伝統文化継承ネットワークが組織された。文化の継承を目的とした3地域における郷土料理の紹介のプログラムである。各地域3品を婦人会会員が直接料理を作り紹介している。地域の風土・観光・歴史の紹介を加え、郷土料理のいわれを明らかにしている。また、静止画において材料、作り方、栄養一覧表、効能を示すとともに、食物学を専門とする大学の教授による解説ビデオも加えられている。単なる料理の紹介ではなく、地域文化の中における郷土料理を学ぶ講座である。

1. 京の郷土料理～与謝野町の海・山の寿司三種～

2010年8月5日～2011年1月31日

いさぎを使った海の寿司 焼きサバを使った山の寿司 ごぼうを使った巻き寿司の三種

2. 京の郷土料理～美山町の伝統食三種～

2010年11月18日～2011年4月30日

鮎ご飯 みょうがとなすの酢みそ和え よん餅

3. 京の郷土料理～宇治田原町の郷土料理～

2011年4月13日～2011年9月30日

うなぎ茶漬け ちゃめし ちゃじる

2. プログラム内容と受講者

以上の3プログラムにおいては、プログラムごとに受講者の特性が顕著に表れている。

第一グループの8コースは総受講者は803人、登録者合計は606人であった。そのうち男性289人(47.7%)、女性243人(40.1%)、不明74人(12.2%)と男女の人数に大きな差はなかった。また、60歳代が35%、70歳代が20%、さらに80歳以上が1%と高齢者が全体の6割近くを占めた。さらに50歳代18%、40歳代13%と続く。全体の77%が40歳以上である。

最も大きな特徴は、受講者の地域的偏りである。京都府南部に位置する山城地域の受講者は73.6%と他を大きく上回る。北部の丹後、中丹、南丹を合わせても1.5%にしかならない。この受講者の地域差の要因の一つは、山城地域に関わる内容を山城地域の市やNPOが制作したことにあると考えられる。さらに山城地域には、制作に関わったNPOのようなインターネットを活用する人々のサークルがいくつも存在しているということも大きく影響しているといえる。

第二グループの源氏物語3コースの特色は、女性の受講者が、第一、第二、第三のコースともに男性の受講者数を上回っていることである。第一のコースでは225人中男性72人(32.0%)、

女性 137 人 (60.9%)、不明 16 人 (7.1%) であり、第二のコースでは 231 人中男性 84 人 (36.4%)、女性 135 人 (58.4%)、不明 12 人 (5.2%)、第三のコースにおいては 164 人中男性 70 人 (42.7%)、女性 83 人 (50.6%)、不明 11 人 (6.7%) である。有名な古典文学である源氏物語であるだけに多くの女性の受講を得ることができたと考えられる。

年齢は 3 コースとも、50 歳代 60 歳代が最も多い。また、男女によって年齢構成が異なる。男性は第 2 のコースに顕著に見られるように、50 歳代 14% に対し、70 歳代 27% と、50 歳代より 70 歳代の方が多く、女性は 50 歳代 31% に対し、70 歳代 10% と、50 歳代が多い。

上記第一グループである 8 コースと同様、この第二グループにおいても源氏物語の第一、第二、第三のコースとも北部地域の受講者は 5% にも満たず、圧倒的に南部地域の受講者が多い。またこの源氏物語の受講者の地域分布は、第一のコースが山城地域 41.3%、他府県 25.8%、第二のコースが山城地域 49.4%、他府県 30.9%、第三のコースが山城地域 58.5%、他府県 25.0% であった。しかし第一グループの 8 コースの他府県受講者は山城地域 73.6% に対して 10.4% に過ぎなかった。源氏物語 3 コースはよく知られた古典であり、2008 年が千年紀であったことから、他府県の受講者が多くを占めたと考えられる。<sup>注②</sup>

第 3 の京の郷土料理はまだ詳しいデータの報告がない。ただ 2011 年 6 月までの北部の受講者数は、与謝野町の「与謝野町の家・山の寿司三種」、美山町の「美山町の伝統食 3 種」ともに少なかったとだけ報告を受けている。北部のコンテンツを配信した場合でも、北部の視聴者が少ないようである。まず早急に正確なデータを開示することが必要である。さらに、詳細な分析が求められる。

現在までの実施において、北部における視聴が十分でないという問題は否めない。当初の目的は京都府北部の生涯学習の機会を増大するということであった。この目標は達成できていない。以下、e-ラーニングに対する調査をもとに今後の課題および方策を探る。

## II. e-ラーニング活用の実態とe-ラーニングへの関心

北部地域および南部地域さらに大学生に e-ラーニングに関する調査をインタビューおよび質問紙を用いて実施した。

### 1. 北部地域の e-ラーニング制作関係者に対する調査

#### (1) 2010 年 5 月 12 日 与謝野町におけるインタビュー

与謝野町の料理に関する生涯学習講座 (e-ラーニング) の制作に関わる岩滝地区婦人会会員 6 人及びアナウンス担当者 1 人にインタビューを実施した。携帯、パソコンの活用方法および「インターネット放送局生涯学習講座」と「e-ラーニング塾」の視聴に関する質問をした。

調査対象者はいずれも女性であり、50 歳代 1 人、60 歳代 5 人、70 歳代 1 人である。

- ・50歳代女性1人は、携帯電話は電話、メール、インターネット機能とも良く使用する。パソコンは、自分専用のものを持っている。インターネットも良く使用する。ただし、道案内等に使用し、学習には使わない。従って、「インターネット放送局生涯学習講座」、「eラーニング塾」の視聴はしたことがない。
- ・60歳代の女性5人は、携帯電話は電話とメール機能のみを使用する。いずれもパソコンは使用しない。インターネットは使わないが、町内の有線テレビで与謝町や京都府の情報を得る。
- ・70歳代女性1人は、携帯電話は電話、メール、インターネットの機能とも良く使用する。パソコンは、自分専用のものを持っている。インターネットも良く使用する。道案内等に使用する。京都府が「インターネット放送局生涯学習講座」、「eラーニング塾」を制作していることは知っているので、よく視聴する。
- ・関係者である50歳代女性1人は、携帯電話は電話、メール、インターネットの機能とも良く使用する。パソコンは、自分専用のものを持っている。インターネットも良く使用する。ただし、学習には使わない。従って、「インターネット放送局生涯学習講座」、「eラーニング塾」の視聴はしたことがない。eラーニングの生涯学習講座があることを知ったが、どんな講座があるか、直ぐ解る方法がないと、使用には結びつかない。今まで町の広報紙が情報の源であったが、現在はローカルテレビに移行した。

また、上記の婦人会会長である70歳代女性は、会員について以下のように述べていた。「他の会員、周囲の人達も、パソコンのインターネット機能は使わない。また、学習に使うということは、聞いたことがない。学ぶとしたらケーブルテレビを通してである。ケーブルテレビは、地域のことが放送されており、見ている人が多い。」

以上の結果からは、パソコンを使ってインターネットを活用する人は少数であると考えられる。また、インターネットを活用する人達もインターネットを活用して学習するという意識を持つには至っていないといえる。地域に関わるeラーニングが配信されても、多くの人が見る可能性は、少ない。

## (2) 2010年8月30日美山地域におけるインタビュー

美山地域のeラーニング講座制作に関わった女性3人は、いずれも60歳後半である。いずれも、パソコンは使用しない。携帯電は電話およびメール機能のみを使用する。また、同日の美山町自然文化村職員(30代、男性)へのインタビューにおいては、「インターネットを用いた学習をこのセンターにおいて実施することは考えられない。インターネットそれもブロードバンドへの接続はまだ不十分ではないか」とのことであった。

## 2. 北部地域の社会教育関係者へのインタビュー

### (1) 2010年3月1日 於与謝野町役場加悦庁舎 地域振興課CATV担当主幹に対するイン

タビューから得た情報は以下の通りである。

与謝野町の有線テレビ（CATV）は、1991年9月に旧加悦町において防災の一斉伝達を目的に開設された。加入率は世帯数の約6割である。2世帯住宅が多くあることを考えると7割近くが加入しているということができる。視聴料は毎月1000円である。有線テレビ加入者、視聴料にそれぞれ2000円（10M）、3000円（30M）、4000円（100M）を追加することによってインターネットが利用できる。配線工事の補助金（1800円）も出る。有線テレビからの加入率は3割である。また、個々にNTTのADSLに加入している世帯も多くある。

有線テレビには、加悦町時代から地元の郷土史研究家が企画出演して史跡を紹介する「歴史の散歩道」という番組を500本近く制作している。また、成人の日には、小中学校時代の入学式の放送を再放送するなど、地元に着した番組作りをしている。3町合併後は、他町の祭りを紹介する番組が高齢者に喜ばれている。どの番組も地元の者が出演していることが特色であり、強みと言える。最近、文化協会や体育サークルの活動紹介もしている。地域の行事を地域の人が自分たちで撮影し番組にすることも実施している。各地域の特徴を生かし、ユニークな活動を紹介していきたい。

以上の話からは、現在のところe-ラーニングが生涯学習振興に直結するとは考えられない。実際、「与謝野町のすし三種」は優先テレビでも放送されたことにより、e-ラーニングに親しんでいない婦人会員も視聴したとのことである。また、地域の青年会議所の役員が視聴したことにより、新たにこの料理の学習会が催された。インターネットよりも有線テレビを通しての方が、情報が伝わり易く、また学習としての成果が期待できるというのが現状である。

(2) 2010年3月28日 於舞鶴市中央公民館 舞鶴市社会教育課長へのインタビュー内容は以下の通りである。

インターネットは、個人契約をすれば、ブロードバンドに接続できる。従って、インターネットは、使用することができる。若者や特に興味のある者は、多いに活用しているということができるが、多くの成人特に熟年層が活用しているとは言い難い。公民館における学習にもe-ラーニングを活用したものは無い。それを実施できる状態とは言い難い。

以上の結果から、北部地域では、インターネットの活用そのものがまだ一般にいき渡っているとは言い難く、学習への活用には遠く及ばない状態であるということができる。これらは、視聴の現状と一致している。

### 3. 南部地域のe-ラーニングに関する調査

本調査は、京都府南部に在住し、インターネット使用に慣れている成人の意見を聴取するためインターネットを活用しているグループの副理事長の協力を得てインターネットを通して回答を得たものである。送付対象者は宇治市のインターネットを活用して交流しているグループ



のメンバー 50 人であり、回答の返信は 11 人であった。「京都 e-ラーニング塾」および「インターネット放送局生涯学習講座」(以下、「生涯学習講座」)のアクセスと視聴の感想および e-ラーニングに関する質問をした。「京都 e-ラーニング塾」で配信していた講座は、「京の郷土料理～美山町の伝統食三種」(鮎ご飯 みょうがとなすの酢みそ和え よん餅)「京の郷土料理～宇治田原町の郷土料理」(うなぎ茶漬け ちゃめし ちゃじる)である。

2010 年 12 月 10 日から 2 月 10 日の間に「京都 e-ラーニング塾」と「生涯学習講座」を視聴し、回答用紙に記入、調査者のアドレスに返信するというものである。調査対象者は、男性 8 人(年齢 40 歳代 1 人、50 歳代 2 人、60 歳代 2 人、70 歳代 3 人)女性 3 人(年齢 30 代 1 人、60 歳代 2 人)である。(表 2 参照)

問 1 の「京都 e-ラーニング塾」「インターネット放送局生涯学習講座」を検索し、サイトに繋ぎ、どのような経緯でどのくらいかかったかを報告するという依頼に関しては、以下の通りである。

全く接続できなかった 1 人を除き、10 人が様々な方法でいかに早く講座に到達できるか試した。「生涯学習講座」は検索エンジンから 1 分以内で到達できるが、「京都 e-ラーニング塾」は様々なサイトが現れ到達に時間がかかる、到達できない。京都府のホームページから入るのが一番確実だが、時間がかかり過ぎるとというのが、10 人の結果であった。

依頼を受けてインターネットに慣れ親しんだ人達がサイトに到達しようと努力をした結果が上記のようでは、一般の人達の活用を期待することは難しいという結果が出た。

問 2 の「京都 e-ラーニング塾」に利用登録(無料)をして、現在開講中の 2 講座を受講し、すたれゆく郷土料理を記録し、継承することに関する感想を述べることにしては、概ね肯定的な回答を得た。アクセスすることのできた 10 人のうち 70 歳と 75 歳男性は、この 2 講座には興味がない、および多忙であるという理由で受講しなかった。また、61 歳男性は、「伝統料理を生活の節目に実施することが継承への現実的なアプローチ」であると実施の必要性を述べていた。この講座自体には回答していなかったが、この講座を見たことにより現実的な継承を考察したとも考えられる。中でも 38 歳女性は「郷土料理を継承するという事は、その地域の自然、文化、風習なども同時に伝える事が出来るという事が分かった」と e-ラーニングで継承の可能性を高めることに加えて、郷土料理と自然、文化、風習等の関係に関して述べていた。

問 3 の「京都 e-ラーニング塾」そのものについての感想に関しては、「自宅で」、「何度でも」、「画像なので解り易い」と e-ラーニングの特徴を上げると同時に、コンテンツの内容、種類、ブレンディッド学習の要求、さらに受講を忘れないように配信者側からの呼びかけの必要性等が述べられていた。

問 4 の「生涯学習講座」に関しては、コンテンツの種類への要望および講座の特色を出すことへの提案があった。

問 5 の e-ラーニングの経験に関しては、「5 講座受けている」が 77 歳男性 1 人、「1 講座受

けたことある」が75歳男性1人、「有る」が2人であり、後の6人は講座受講経験がない。インターネットを活用している人達でさえe-ラーニングの活用は少ない。

問6の今後のe-ラーニングの可能性に関しては、コンテンツ次第という回答が10人、若者世代ならという回答が1人であった。

問7のe-ラーニングに関する意見には、コンテンツ制作への参加の必要性和一方的な配信ではない工夫、ブレンディッド学習等が考えられるが、集合型や集会型学習によるフェイストゥフェイス授業（面接授業）の必要性についての意見があった。

緊要な課題は、アクセスの簡便さということができる。また、副理事長の話によると、50人に依頼したにも関わらず、11人しか回答がなかったが、約10人ほどは、e-ラーニングというものが解らず、回答を躊躇したとのことである。ただ、「このような講座があることを知って、その後は見るようになった」と連絡してきたとのことである。

アクセルならびに広報の問題に加えて、インターネット活用者においてもe-ラーニングはまだなじみ深いものとは言い難いことが明らかになった。伝統継承のプログラムは評価を得ているということができる。

#### 4. 京都市にある教育学部大学生に対する調査

日ごろからインターネットに親しんでいる大学生の意識を知るべく以下の調査を実施した。2010年12月10日から2011年2月10日までに同様の講座を視聴し、回答を調査者のアドレスに返信するというものである。対象者は、京都市内にある大学の教育学部学生20人、男性11人（21歳5人、22歳6人）、女性9人（21歳5人、22歳4人）である。（表3参照）

問1のアクセスに関しては、「生涯学習講座」には、容易にアクセスできるが、「京都e-ラーニング塾」は、様々な方法を用いても時間がかかるということが明らかになった。いずれも、様々な方法でアクセスを試みており、ITに親しんでいることが以下の文面からもうかがえる。

「Yahooで「e塾」検索→1番目に出てきた京都府HPの「京都eラーニング塾とは、何か」というページに記載されていたアドレスより「e塾」のページへ移動。所要時間 約2分。「京都府 京都eラーニング塾」や「京都eラーニング」でも検索したが、トップページに直接繋がるものは出て来なかった。Yahooで「生講」で検索→1番目に出てきた「e塾」のトップページにリンクが張られていたので、そこから移動した。所要時間 約1分。」

「「e塾」で検索→「京都eラーニング塾とは-よくあるお問い合わせ」をクリック→「申し込み」ページの下にあるURLから接続。「e塾」で開講されている講義の説明を伴った表示が多く、「e塾」のトップページに直接繋げないので、何らかの講義のページを経由しないと辿り着けない。時間はさほどかからなかった。」

「「e塾」は、タイトル通りに検索してもサイトは出て来ず、「京都eラーニング塾はどこにいればありますか」という質問のサイトしか出て来なかった。そのサイトにはHPにジャンプ

出来るアドレスが添付されていたのでそこから繋いだ。「生講」は「インターネット放送局」「生涯学習講座」どちらも入力しないとサイトとして出てこなかった。一方だけだとキーワード不足なのか、違う都道府県のサイトが出て来たり検索数が多すぎたりして見つけられなかった。」

サイトに到達する為に、本人はそう苦でもなくネット上を軽快に飛び回ったようだが、到達が容易でないことは明らかである。他の回答もほぼ同様であった。

問2の郷土料理を記録配信し、継承することに対しては、視聴不可2人、無回答1人を除く17人が、記録・配信の必要性および継承の重要性を強く認識していた。また、継承の為に学校と連携した郷土料理作りの実施や、住民同士の交流による体験的活動の必要性についても述べていた。

その他、「自分の地域に伝わる料理が有り、それらをビデオ等を通して知る事で、郷土料理に親しみを持つ事が出来る。郷土料理に使われている材料を辿ると、その地域の特性や特色も知る事が出来る。材料や作り方を映像として配信する事により、“おいしそう”“食べてみたい”と思う事が出来る。“おいしそう”“食べてみたい”と思わせる事が郷土料理を継承する第一歩だと思うので、映像を使って紹介するという方法は最適であると思う。」

「宇治茶の歴史を受講して、これまで小中高で学んできた歴史と宇治茶の歴史には深い繋がりが数多く有る事が分かった。」

「学習者にとっては遠くの地域まで行かずに郷土料理を学べる上に、インターネットが利用できる環境さえあれば時間や場所を問わないので、仕事をしていても受講しやすいと思う。地域にとっては郷土料理を継承して残していけるだけでなく、地域の宣伝にもなるので、村おこしの効果も期待出来ると思う。」

「巻き戻しが出来るので、栄養価等の大切な部分を何回も見ることが出来て便利だと思った。」

「昔の人々が築いてきた歴史があってこそ私達は存在するので、現代に適した方法を大いに活用して歴史や文化を継承していく必要があると思う。」

「この様な動画配信機能を使って広く人々に公開する事は、自国だけでなく他国にまで文化を伝えられるので良いと思う。」

「小学生の頃に地域に伝わる料理について調べた事があるが、今ではその内容も忘れてしまった。しかし、作り方まで細かく記されているこの動画を見て、“また作ってみよう”という気持ちになった。」

以上の回答にみられるように、学生達は伝統継承やその活動の展開への意識が高い。またe-ラーニングへの抵抗がなく、身近なものとして、今後の展開をも考えている。

問3の京都e-ラーニング塾に関する感想は、無回答の1人を除く19人は肯定的であり、時間や場所を選ばないことや、繰り返し視聴できるなどのe-ラーニングに特徴が強調されていた。さらに興味関心を広げるきっかけになること、特に地元京都を学ぶことにより「学ぶ」ということのきっかけになることが挙げられていた。また、無料であること、講師に質問でき

ることの利点が強調されていた。受講生同士の掲示板や、携帯からの視聴の提案があった。その他、アクセスがしにくいことや、広報が不十分であること、視聴中に強制的に閉じられたことなど実際に視聴するまでおよび視聴中等の問題点等、視聴に関する指摘もあった。

問4の「生涯学習講座」に関しては、特に興味のあるものはなかったと答えた1人を除く19人は肯定的であり、登録不要であることや配信時期が限られていないことの簡便性さらには、無料であることの利点を挙げていた。また、多種類の講座があり、その中にはメタボリック対策に関するものなど、人に聞きにくい内容のものを自分で学習できるという利点のある講座があることが挙げられていた。さらに、「例えば、『サッカーで鍛えておいたほうが良い筋肉の鍛え方』『スノーボードのトリックの仕方』『旅行を100倍楽しむ方法』等有れば良いと思う」や『学べるニュース』の提案など現在配信していない若者向けの講座の提案もあった。また「利用者からの要望を知り講座の配信ができるシステムを作っては」との提案もあった。「世間で流れている話題の中には理解する事が難しいものも有るので、インターネットをよく利用する中学生、高校生にも良い影響を与えようと思う」という若い世代の活用に関する意見もあった。「生涯学習講座を普及させる事で、もっと様々な人が生涯学習を行える」のように、今後の生涯学習の振興について言及が多くあった。

問5のこのような形でのe-ラーニングをしたことがあるかに関しては、20人全員が大学での授業においては、e-ラーニングが実施されており、授業としてはe-ラーニングを経験していると回答している。しかしまた全員が、このような形での学習は初めてと回答している。すなわち、授業で強制されて学習することはあっても、自ら授業以外にe-ラーニングで学んだことはない。

問6の今後のe-ラーニングの可能性に関しては、20人全員がe-ラーニングの有効性を確信し今後の活用に関心を持って寄せている。「学校や企業の教育以外にe-ラーニングで学習ができることを多くの人々が認識する必要があり、そのためにデモンストレーションをする等工夫が必要である。」さらに有効性を高めるため、「講師および学習者がプログラム評価が出来るようにすること」や、フェイス トゥ フェイスの交流は出来ないものの、「インターネットを通しての情報交換や討論の機会を作ること」、また「フィールドトリップを取り入れたブレンディッド学習」を提案している。「大学教育にもこれら京都e-ラーニング塾を取り入れる。」さらに、「小学校における教育にも活用することができる。社会科での活用、過程学習での活用、保護者も学習内容を共有できること、しょう害を持った児童への学習の保障として等有効な活用がある」と提案している。ただ、「地域や家庭の条件により使用環境が整っていないところがあるので、その対策が重要である。」映像をもって学ぶことができ、全国から発信したものを全国で学べるe-ラーニングは「素晴らしい学習ツール」であると述べている。

以上のように現状では、アクセスや広報に問題があるが、学生達は、伝統継承の内容には非常に高い関心を持ち、その重要性を認識している。また、彼らはインターネットを活用して学

ぶということに対する抵抗感を持っていない。今後、授業以外の様々な分野におけるeラーニングの活用が期待できる。

#### 5. 佛教大学四条センター受講者インタビュー

佛教大学四条センターは大学付属機関の生涯学習センターであり、2008年度から日本一の年間受講者数を誇るという開設30年を迎えるセンターである。交通の便利な四条烏丸にあり、フェイス トゥ フェイスの授業を展開している。インタビューは2010年10月12日から2011年1月21日の間に実施した。調査対象者は、パソコンやインターネットに関してのインタビューを快諾した受講者、男性8人(60代4人、70代3人、80代1人)、女性3人(60代1人、70代2人)計11人である。表4にみられるように、携帯電話で電話機能の使用は9人がするが、メールは3人である。また、インターネット機能の利用者は1人である。パソコンの使用をするのも、インターネットをするのも、70歳の男性1人である。eラーニングという言葉も「聞いたことはある」が2人だけで、eラーニング経験者は1人もいない。eラーニングに関しては、ICTと学習を全く結びつけないという状況である。

フェイス トゥ フェイスの学習から満足を得ている受講生にとって、未知の世界のeラーニングは考えも及ばない学習方法ということができる。

### Ⅲ. 京都府におけるeラーニング展開に関する課題の考察及び展望

第一の課題は、アクセスに問題があることである。インターネット歴15年の女性が「容易にアクセスできて初めて価値がでる」と答えているように、アクセスに問題があると、コンテンツが全く生かされない。いかに良いコンテンツを配信していても、そのホームページに到達できなければ、視聴はできない。アクセスをいかに容易にするかは、京都府が配信するeラーニングの最大の問題点の一つということができる。

京都府のeラーニング配信におけるアクセス問題は最初から多くの指摘があった。検索エンジンで直ぐに出ない場合、どのような手順で到達できるかということだけでも周知出来るようにしてほしいとの要望があった。また、どのようにすれば到達出来るのか説明の方法を統一して欲しいという要望もあった。しかし、プログラムだけ作り、その作成後の活用に対する要望に対して真摯なる対応がみられなかった。当初は、京都府のホームページにインターネット放送局のバナーがあり、そのバナーを開けると、「生涯学習講座」と「京都eラーニング塾」のバナーが出てきた。この時点でも、「学習eラーニング」という紛らわしいバナーが直ぐ上にあり、多くの人から苦情が出ていた。これは、他部局との関わりで生じる問題であり、担当部局では解決できないと長く放置されていた。さらなる問題は、ある日突然「インターネット放送局」のバナーがなくなり、それまで行われてきた方法ではアクセスできなくなったこと

である。現在は、京都府のホームページの教育・文化部門を開け、次に教育・学習の項を開けることにより、両バナーに到達できる。インターネット放送局という大きなくくりがなくなり、インターネット放送局というバナーも無くなった。バナーが変わりアクセスの手順が変わるのは、利用者にとって有益とは言えない。また、現在のように京都府のホームページに入っても、二度クリックしないと両講座のバナーに到達できないのは不親切である。さらに、驚くことに、ある時期、「生涯学習講座」のバナーがなくなったこともあった。プログラム（講座）を提供する側は、アクセスの重要性を真摯に考える必要がある。

さらなる問題は、この京都府が配信するプログラムの名称自体が明確でないことである。「インターネット放送局生涯学習講座」はもともと「生涯学習講座」と呼んでいた。「インターネット放送局」は多くのインターネット関係のバナーを包括する名前であった。その中の生涯学習講座という意味で、「インターネット放送局生涯学習講座」と呼ばれていた。現在のバナーは、「インターネット放送局」となっており、小さく生涯学習講座という文字が書かれている。多くの人々の協力により作りだされ、実施されているプログラムを管理する部局は、名称を明確にし、それをしっかり保持し、アクセスを可能にする努力をするべきである。

第二に広報が不十分であることが挙げられる。アクセスに関して記したように、作るだけで用足りとする姿勢では、府民の生涯学習を推進することにはならない。教材を作ったなら、それを手元に届ける努力が必要である。このことは、上記の名称を明確にし、変更をするべきでないということと関わる。コンテンツの作成と同様に、配信、広報の重要性を担当部局がしっかりと認識するべきである。また、制作に関する関係委員会を開催し、議事録を公開し委員会の意見を反映するよう効率的な運営が求められる。

第三の課題は、ハード整備にある。北部地域においては有線テレビは充実しているが、インターネット特にブロードバンドへの接続は不十分である。また、若者のいない世帯は接続していない場合が多い。北部のハード整備が不十分であり、「インターネットで画像を見るのには非常に時間がかかる」、または、「インターネット回線が整備されていない」という声が上がっている。

第四の課題は、e-ラーニングの活用場の創出である。京都府北部では、e-ラーニングの概念普及以前の問題として、インターネットの活用が一般化していなし。e-ラーニングによって北部地域の生涯学習機会増加を達成する為には、ただ単にコンテンツを増やすのではなく、視聴の機会作りを目を向けなければならない。e-ラーニングは個人が自宅で視聴しなければならないというものではない。

2004年度に北部のJRの舞鶴駅で実施されたように、インターネットを活用した集会学習の実施が望まれる。すなわち学習者が集まって、大画面のモニターで数回学習した後、同じ講座の講師を招いてのブレンディッド学習をするなどして、インターネット活用に不慣れな人々の学習の支援をする必要がある。

以上の課題は、工夫と努力次第で解決可能なものである。今後の真摯な対応でe-ラーニングの活用は増大することが期待できる。

本調査でICTの普及とe-ラーニングとの普及とは比例しないということが明らかになった。インターネットを活用している成人も、インターネットや大学教育においてe-ラーニングを活用している大学生も、一般教養としてのe-ラーニングには親しんでいなかった。また、そのような学習方法があることさえ知らなかった。

学校教育における授業や企業内教育におけるe-ラーニングの活用と自らの選択による一般教養を中心としたe-ラーニングの普及は並行してないことは以下のデータからも明らかである。「e-ラーニング白書 2008 / 2009年版」には、2006年度でインターネット利用人口は8,754万人、人口普及率は、68.5パーセント（総務省）であり、普及率は年々増加している。<sup>注③</sup>しかし、2007年度の個人的な学習でのe-ラーニング利用度調査では、個人的な学習でのe-ラーニング利用は、現在している6.5%、過去に利用したことがある15.0%、利用したことがない78.6%である。しかもこの調査では、「DS」20.1%、その他の「Will」、「PSP」や「iPod」を加えた合計が26.5%を占めている。「パソコン」は利用者の中でも10.8%に過ぎない。<sup>注④</sup>

すなわち現状では、e-ラーニングの認知が不十分であるといえることができる。

このようにe-ラーニングを活用した生涯学習が十分普及していな状態の中で京都府のe-ラーニングは一方方向性、双方向性とも多くの視聴を得ることができた。京都府がネットワークを作り、各地域が地域の歴史と文化を学習コンテンツとして発信し、その地域の人達が身近な歴史と文化を学習したことによると考えられる。京都には多くの大学があり、ネットワーク参加大学の協力を得て大学特色を生かしたコンテンツを配信することができたことも大きな要因である。また源氏物語に関する講座のように、京都から発信することにより、京都ならではのコンテンツを提供し、全国的な視聴を得ることができたものもある。京都府が実施した先駆的な試みは、北部に学習機会をという当初の目的は達成できなかったものの、京都ならではのe-ラーニングの配信により多くの視聴を得たという点で生涯学習の新たな一頁を開いたといえることができる。

学生が「他国にまで文化を伝えることができる」と指摘しているように、インターネットによる配信は、広く海外での学習を可能にする。実際、京都府宮津市の姉妹都市デルレイビーチ (Delray Beach) 市の森上ミュージアム・ジャパニーズガーデン (Morikami Museum and Japanese Gardens) において「インターネット放送局生涯学習講座」が、活用されているとの報告がある。

京都府北部地域への生涯学習機会の増加は、各人が直接インターネットに接続しなくとも、一ヶ所に集まる集会学習やブレンディッド学習の工夫で可能にすることができる。また、ハードの整備が大きな課題であったが、学生から指摘があったように、スマートフォンの活用が広まりつつあり、インターネットへの接続および操作が容易に出来るようになった。タブレット

型の IT 機器は、高齢者の活用増加がめざましい。今までの課題がスマートフォンの普及と共に解決されようとしている。北部地域の学習機会増加だけでなく、京都府全体における生涯学習の拡充も期待できる。

若い学生達は、伝統の継承、文化の伝達という意義あるコンテンツに関心を持ち、それらを学ぶことの重要性を認識している。e-ラーニングを身近に捉えている彼らが、今後さらにe-ラーニングを活用すること、また、コンテンツの制作やシステムの開発に貢献することが期待できる。

京都府は、京都生涯学習推進ネットワークという 119 団体からなるネットワークを作り、生涯学習の進展に努めてきた。e-ラーニングを用いて京都の文化を学び、発信するとともに、郷土の文化の継承を試みている。このような先駆的な試みを発展させる為には、連携によるコンテンツの作成の充実はもとより、アクセス、広報等その活用の拡充を目指した工夫と努力を継続的にかつ真摯に実施しなければならない。それらの努力があれば、京都府における生涯学習 e-ラーニングは、今後、IT 化の進展や e-ラーニングの普及と相俟って、大きな成果を生み出していくと考えられる。

注)

①生涯学習推進ネットワークホームページ

[http://www.pref.kyoto.jp/spo-syo/resources/sankakumeibol1\\_09\\_21.pdf](http://www.pref.kyoto.jp/spo-syo/resources/sankakumeibol1_09_21.pdf)

(2011年10月5日検索)

②Nishioka, Shoko (2008). Adult e-Learning: Development of two-way and blended learning courses in Kyoto. Proceedings of the 2008 CIAE Pre-Conference, American Association for Adult and Continuing Education, Nov. 2008

③西岡正子, Appraisal of Regional Adult E-Learning Provision in Kyoto, 教育学論集 第21号, 佛教大学, 2010年3月

④『eラーニング白書2008 / 2009年版』特定非営利活動法人日本イーラーニングコソシアム編, 東京電気大学出版会, 2008年8月1日 総務省「通信利用動向調査「世帯編」」

⑤同上書

NTTレゾナント, 慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ総合研究機構 (DMC), 『eラーニングユーザー調査 (個人)』2007より, n=1063, 男女比 各50% 年齢構成 20歳未満20%, 20歳代, 30歳代, 40歳代各20%, 50歳代18%, 60歳以上2%, 職種・職務構成 一般社員27%, 役員から主任及び大学関係者22%, 派遣・アルバイト22%, 学生26%, その他3%。

(2010年度佛教大学特別研究費による研究である)

(にしおか しょうこ 教育学科)

2011年10月31日受理



表2 eラーニング回答 (一般)

性別	年齢	インターネット利用歴	2. 「京都eラーニング塾」に利用登録(無料)をして、現在開講中の2講座を受講して下さい。各講座の感想ではなく、すたれゆく郷土料理を記録し配信、継承する事に関する感想を述べて下さい。	3. 「京都eラーニング塾」そのものについての感想をお書き下さい。	4. 「生涯学習講座」の感想、特に何に興味があるか、またどのようなものが見たいかについてお書き下さい。	5. 今までこのような形でeラーニングをしたことがあるかどうかお書き下さい。	6. 今後のeラーニングの可能性についてお書き下さい。	7. その他eラーニングについて御意見を お書き下さい。
1 男	77	20年	・田舎育ちなので独特の食べ物には親しみが有る。 ・日本古来の郷土料理を継承して欲しい。	・自宅に居ながら受講出来る。 ・忘れずに受講出来る様に注意喚起のメッセージを送って欲しい。	・植物園の講座を受講してから訪れたら、より理解出来る。 ・音楽が有ると楽しめる。	・5講座受けた事が有る。	・講座のカテゴリーを増やす事で受講者は増える。	・企業のニーズに対応出来れば展開が広がる。
2 男	75	15年	・多忙のため受講していない。	・講座の選定が最重要課題。	・実学講座に興味があるが、Googleで検索して核心のサイトに行く方が目的に合う。	・目標池に関する講座を受けたことがある。	・テーマの設定とアクセス方法の一般周知次第で伸びる可能性が有る。	・間6.に同じ。
3 男	41	12~3年	・受講出来なかった。	・パソコンのアプリケーションの利用マニュアル動画を見た時は、本で読むより実際の作業を見られるので分かりやすかった。 ・いつでも見られると思うと視聴意欲がわかない。	・文化遺産のシリーズ物をダウンロードしたことがあるが、見ていない。	・無い。	・上手く活用すれば様々な可能性が有る。	
4 男	61	14年	・伝統料理を日々の生活の中で継続するのは困難。 ・生活の節目において維持する事が継承への現実的なアプローチ。	・“学び”とは人的コミュニケーションの中で生じるのでeラーニングには限界が有る。 ・ネットを通して供給された学習は、それを吟味される過程が無ければ学習者は内容を消化できない。	・政治課題や宗教的、哲学的な内容のもの。	・今回が初めて。	・人的なコミュニケーションが感じにくいので積極的にやるうとは思わない。 ・連帯や共感の希薄化が不安。	・eラーニングには“学び”に必要な学友仲間たちとの共感や教えてくれた人への感謝が欠けていない。 ・eラーニングには論理だけでなく感性においても物足りなさを感ずる。 ・選択肢の一つとしてeラーニングで“学び”に辿りつく人もいる。 ・eラーニングは“学び”の主要な領域ではない。
5 男	52	20年以上	・とても良い。	・とても良い。 ・様々なジャンルのコンテンツが必要。		・コンテンツ制作に関わった事が有る。	・大学の先生だけでなく地元の人々の知識や技術を紹介するコンテンツが必要。	・誰でもがコンテンツ制作出来る仕組みづくりが必要。
6 男	55	10年	・とても良い。 ・時代の速い流れの中で忘れ去られない様に、今しかりとした形で残す必要がある。 ・振り返る事によって未来が見える事も有る。	・認知度を上げる必要がある。 ・京都は残すべき文化や暮らしが数多く有るので様々な分野でのスキルアップの助けになる。 ・事業を進める時に事例として利用出来るコンテンツが欲しい。	・インターネット動画は冗雑状態なので、その中で特色を出すのは難しい。	・作成側でかわわっている。	・大いにある。 ・認知度や良質なコンテンツ作成、社会への影響力を念頭に置いたプランが必要。	
7 男	70	数年	・多忙で受講出来ない。		・無い。	・全く経験が無い。	・テーマ次第で可能性は有る。	
8 男	68	10年	・他の郷土料理も見てみたい。 ・是非継承して欲しい。	・面白い企画。 ・自宅に居ながらパソコン相手に受講するのも面白い。	・老人介護の実態や施設。	・有る。	・継続の可能性は有る。	・特に無い。
9 女	61	5年	・親から子への料理の継承が無くなって来ている。 ・便利になりすぎた現代は飽食の時代。 ・情報が発達して、料理の旬や地域の特性が分かりにくくなってきている。	・いつでも何度でも繰り返し見られる。 ・画像なので分かりやすい。		・有る。	・多方面で活用出来る。 ・環境問題の講座、介護技術の講座、初心者向けのパソコン講座、料理や体操の講座等を希望。 ・eラーニングで学んだ事を発表する機会が必要。	・講座によってはスクーリングも有ると良い。
10 女	66	15年	・アクセスや操作方法を容易にすれば、とても良い文化継承になる。 ・この動画をきっかけに市民ボランティアを講師として招く講座が開催されればより多くの人に伝承可能。	・今後eラーニングが重宝される時代が来る。 ・面倒なアクセス方法では途中で諦める人もいるのでサポート体制が必要。	・画面に入らなかった。	・受講した事が無い。	・高齢者や障がいを持つ人々、過疎地に住む人々にとっての学習の場には、そこで出会った人々と触れ合う事が生涯学習活動の中心となる。	・漠然と一般の人々に発信するよりも講座内容を特化するべき。 ・単位を授与して修了証書を出すのも受講者を増やす一つの方法。
11 女	38	10年	・郷土料理の継承は、その地域の自然、文化、風習の伝承でもある。 ・地域の縦横の繋がりが希薄となり口承が困難な現在においてeラーニングは有効な手段。	・目次が細分化されていて視聴しやすい。	・コンテンツの種類や提供団体が豊富。 ・提供団体毎に映像の作り方に趣向が凝らされていて飽きない。	・今回が初めて。	・生涯学習の中心となる60歳以上の世代は外出する事を重要視するので、eラーニングを根付かせるのは困難。 ・eラーニングを利用しなければ学べない事を配信すべき。	・学習意欲の持続が課題。 ・学ぶ手段や機会が豊富に有るべき。 ・京都府の取り組みは先駆的。

e-ラーニングを活用した成人学習の開発 (西岡 正子)

表3 e-ラーニング回答 (学生)

性別	年齢	2. 「京都e-ラーニング塾」に利用登録(無料)をして、現在開講中の2講座を受講して下さい。各講座の感想ではなく、すたれゆく郷土料理を記録し配信、継承する事に関する感想を述べて下さい。	3. 「京都e-ラーニング塾」そのものについての感想をお書き下さい。	4. 「生涯学習講座」の感想。特に何に興味があるか、またどのようなものが見たかについてお書き下さい。	5. 今までこのような形でe-ラーニングをしたことがあるかどうかお書き下さい。	6. 今後のe-ラーニングの可能性についてお書き下さい。
1	女	22	・美山町は知っているが郷土料理の存在は知らない。 ・継承のためにはまず郷土料理について知ってもらう必要がある。	・登録し手こずった。 ・興味のある様々な事を学べる。	・申込不要で興味の有る事について簡単に学べるので便利。 ・今後も利用したい。	・大学の学科内での利用は有る。 ・誰でも参加できるe-ラーニングの存在を初めて知った。 ・一般の人はe-ラーニングの事を知る機会が無い。 ・認知度を高める為には学校や地域の行事など大勢の人が集まる機会を利用した活動が必要。
2	女	21	・自分の地域に伝わる料理をビデオ等を通して知る事で親しみを覚える。 ・材料を辿る事で、その地域の特性や特色もわかる。 ・「美味しそう」「食べてみたい」と思わせる事が郷土料理継承の第一歩なので映像を使う方法は最適。	・時間が無い人や外出出来ない人にとっても生涯学習を行える。 ・知識の習得や興味、関心の幅を広げるきっかけになる。	・一目で分かりやすい。 ・自分の興味に当てはまるものを見つけやすく参加する意欲が湧く。 ・あまり関心の無かったものにも参加するきっかけになる。 ・このHPの存在はあまり知られていない。	・学校の掲示板のような形では知らなかった。 ・気軽にどこでもいつでも自分の知りたい事を学べる。 ・認知度を上げる必要がある。 ・様々な人がe-ラーニングを通して生涯学習を行える。
3	男	21	・美山の郷土料理の作り方や栄養価について分かった。 ・小中高で学んできた歴史と宇治茶の歴史には深い繋がりが多い事分かった。 ・この様な情報を生涯学習の一環として発信していく事はとても大切。 ・このツールを利用した人が講座で学んだ事を知識として蓄え、それを他の人にも発信すべき。	・京都府がこういったインターネット学習を主催している事知らなかった。 ・無料で学習出来るスタイルは画期的。 ・講師と受講生の意見のキャッチボールが出来るような機能の設置が必要。	・講義を聞きながら話の要点を整理出来た。 ・講義を記録する為のメモ帳が用意されていて文書として保存も出来るので内容を見返す時に役立つ。 ・バックナンバーを見る事が出来るので助かる。	・大学で利用した事がある。 ・遠く離れた人同士が学習を行える便利なシステム。 ・時間や場所を気にせずに自由に学習を進められる。 ・講義を行う者も受ける者も授業内容を反省、評価出来るシステム作りが必要。 ・受講者が自分の学びを見直したり深めたりする為のフィールドワークや実践的な活動が必要。
4	女	21	・外国からの料理が増えるにつれ郷土料理が影を薄くしている今日では、このような配信は有意義。 ・高齢者の中には懐かしさを感じる人もいる。 ・その地域独特の良さを生かした伝統ある料理が忘れ去られずに、次代へと受け継がれる必要がある。	・好きな時間に何度も受講出来るというのが大きなメリット。 ・携帯電話からのアクセスも整備されるとより多くの人に生涯学習の場を提供できる。	・興味のある分野から生涯学習に取り組みの場となっている。 ・携帯端末からのアクセスも整備されるとより多くの人に生涯学習の場を提供できる。	・生涯学習として利用したのは初めて。 ・e-ラーニングはリアルタイムのコミュニケーションが弱くなる。 ・いつでもどこにいる人とも情報交換し、学び合い、教え合い、討論できるという利点を活かす事でより良い生涯学習の場を広める事が可能。
5	男	22	・見る事が出来なかった。	・京都の各地域の情報を好きな時に閲覧出来るので時間を有効に使える。	・内容が理解しやすかった。 ・地域の情報だけでなく幅広い分野が扱われているので授業の一環としても活用可能。	・このような形では初めて。 ・小学校の社会科の授業でも活用出来る。 ・遠くの地域でも最新の情報が手に入られる。
6	男	22	・視聴出来なかった。		・特に興味のあるものは無かった。	・このような形では初めて。 ・スマートフォンでも利用出来たり、若者向けのコンテンツを増やせば利用者は増える。
7	男	21	・このような取り組みをもっとすべき。 ・情報が行き交う環境が乏しい京都府外の地域では、郷土料理も伝える努力をしなければ途絶える。	・環境や時間を問わず学びたい事を学べる。 ・無料なので手軽に利用出来る。継続し不安が有る人でも受講意欲が湧く。 ・多忙で受講を中断しても再開しやすい。 ・京都の歴史文化に関心を持つ人は多いので年齢に関係なく「学び」のきっかけになる。 ・健康に関する講座も有り幅広い人に向けて発信している。	・無料で登録も不要なので手軽に利用出来る。 ・様々な分野に分かれていて見たいものを探しやすい。 ・生涯学習の場として最適。 ・礼儀や言葉遣いと言った実用的な講座も有る。 ・世間で話題となっている内容を分かりやすく説明する講座も必要。 ・インターネットをよく利用する中学生、高校生にも良い影響を与える。	・この調査をきっかけに知った。 ・今後の可能性に期待。 ・パソコンさえ有れば無料で学習出来る。 ・学校に行けない児童にとっても家庭学習が可能となる。 ・e-ラーニングの存在を知っている人は少ない。 ・実用的な学習の教材を増やせば子供の受講者を増やせる。 ・e-ラーニングを人の生活に活かす為には誰もが必要とする情報を掲載していく事が必須。
8	男	22	・知らない料理ばかりだったので関心を持った。 ・実際に作って食べてみたい。 ・郷土料理を記録し配信する行為は大変面白い。 ・体系的な活動の方が継承に繋がる。	・いつでもどこでも好きなだけ学べ便利。 ・受講者から講師への質問が出来る事が利点。	・使い方が簡単。 ・パワーポイントが分かりやすく勉強になった。	・このような形では初めて。 ・目的や対象者を考慮すればいつでもどこでも受講出来る利点があるのと普及が望まれる。
9	男	21	・とても勉強になる。 ・学習ペースを自分で決められる。	・多くの人に学んでもらえる程の認知度が有るのか疑問。 ・家庭のパソコンで利用出来るので多くの人のニーズに対応。 ・動画が重いのか強制的に閉じられる事が有った。	・コンテンツが多く、無料なので使いやすい。 ・敬語について学べるコンテンツに興味を持った。 ・教育に関するコンテンツが有れば見たい。	・大学以外では初めて。 ・どの大学でも「e-塾」で単位を取れるようには出来ないか。
10	男	22	・時間や場所を問わず学べるので社会人でも受講しやすい。 ・郷土料理を継承出来るだけでなく地域の宣伝にもなり村おこしの効果も期待出来る。	・インターネットの普及が進んでいる現代においても効果的な情報発信方法。 ・家庭のパソコンで利用出来るので多くの人のニーズに対応。 ・動画が重いのか強制的に閉じられる事が有った。	・登録不要なので利用が手軽。 ・様々な分野の講座が有る。 ・利用者の意見が反映されるシステムが必要。	・大学で利用した事がある。 ・進化が可能。 ・同じ講座を受講した人同士で意見交換出来るように利用者同士の交流の場が必要。 ・外部からの情報発信を可能にし、より地域に密着したサイトにするとう面白い。 ・開かれた学習環境の提供が可能。

性別	年齢	2. 「京都eラーニング塾」を利用して登録（無料）をして、現在開講中の2講座を受講して下さい。各講座の感想ではなく、すたれゆく郷土料理を記録し配信 継承する事に関する感想を述べて下さい。	3. 「京都eラーニング塾」そのものについての感想をお書き下さい。	4. 「生涯学習講座」の感想、特に何に興味があるか、またどのようなものが見たいかについてお書き下さい。	5. 今までこのような形でeラーニングをしたことがあるかどうかお書き下さい。	6. 今後のeラーニングの可能性についてお書き下さい。	
11	男	22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・順序に沿って説明されているので分かりやすい。</li> <li>・映像が興味深い。</li> <li>・字幕のナビゲーションが有るので内容が再確認出来る。</li> <li>・巻き戻し機能が便利。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どこでも受講出来る。</li> <li>・過去に配信された講座を視聴出来るのは学習意欲に繋がる。</li> <li>・京都の活性化に繋がる。</li> <li>・誰もが参加出来る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関心の有る事を京都で探せる。</li> <li>・気軽に知識を習得できる機会が与えられるという事は学生のみならず社会人にとっても有意義。</li> <li>・地図や日程が細かく書かれているので今後も活用したい。</li> <li>・今後必要とされる時が来る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・このような形では初めて。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと学生に浸透させる必要が有る。</li> </ul>
12	女	21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体に良くないものが多いのでこの様な取り組みは大切。</li> <li>・食の大切さを再確認したり家族の繋がりを深めたりするきっかけになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自宅で気軽に学習出来る。</li> <li>・巻き戻し出来るので理解しやすい。</li> <li>・様々な講座を受講したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味の有るものが見つけやすい。</li> <li>・新たな発見が得られて視野が広がる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この様な形では初めて。</li> <li>・これからも利用したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習や保護者の学習支援など、子どもの学習に対しても有効。</li> <li>・発達障害の子どもにとっても家庭で学習出来て繰り返せるという点で適する。</li> </ul>
13	男	21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土料理は放っておくと途絶えてしまう。</li> <li>・インターネットを利用して地域の人だけでなく様々な人に伝えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開講している講座が少ない。</li> <li>・検索しても一番最初にトップページに飛ばないのが残念。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どちらでも映像を使っているので「e塾」と統合しても良い。</li> <li>・扱っている内容が広範囲。</li> <li>・映像の説明は分かりやすいが話し方が単調。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・このような形では初めて。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発展すれば様々な人がいつでも勉強出来る。</li> <li>・映像が使われている事が興味深い。</li> <li>・今後の発展に期待。</li> </ul>
14	女	21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットで配信する事で多くの人に存在や現状を伝えられる。</li> <li>・世代を通じて継承するのが困難な今日ではeラーニングは有効な手段。</li> <li>・現代に適した方法を活用した継承が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の好きな時間に受講し学べるのがメリット。</li> <li>・気楽に受けられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・京都府の様々な知識を得られる。</li> <li>・動画は視覚と聴覚に効果的にリアルに伝えられる。</li> <li>・動画は子ども達にとっても親しみやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動画を伴ったeラーニングは初めて。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好きな時に受講出来る。</li> <li>・気楽に利用出来る。</li> <li>・多くの人が取り組みやすい。</li> <li>・生涯学び続ける為に役立つ。</li> </ul>
15	女	22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用登録が複雑。</li> <li>・受講しようとしたがエラーになって先に進めなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めての人にも利用方法が分かるような記載が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コースの分野が色々分かれていて選びやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・eラーニングの利便さを伝える工夫が必要。</li> <li>・使いやすしたり様々な活用方法を考えたりする事で今後の可能性が広がる。</li> </ul>
16	女	22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知らない人にとっては簡単に情報を得られる良い機会。</li> <li>・動画なので、より分かりやすく鮮明に伝えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な事を手軽に学べる。</li> <li>・受講者が集う場が無いという点で受講者同士の繋がりが無くなる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登録不要で多くの講座が開講されていて受講しやすい。</li> <li>・各講座の所要時間が10分～60分程度で空いた時間に視聴しやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学で利用した事が有る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国から各地域の事を学べる。</li> <li>・受講者同士の繋がりがや受講者と講師との繋がりが希薄。</li> <li>・大学でも学習や情報の交流に利用可能。</li> </ul>
17	女	21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・京都府が行っているという事と他府県の人にも利用出来るシステムという事を初めて知った。</li> <li>・誰でも都合のよい時間に受講出来る。</li> <li>・動画はスムーズに学習を進められる。</li> <li>・話のスピードが聞きやすくポイントが文字で表されるので分かりやすい。</li> <li>・自分でも作ってみたい。</li> <li>・「手間がかかりそう」「美味しそうではない」と思っている人が多いから廃れる。</li> <li>・核家族化が進み郷土料理が継承されにくくなる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自由に選んですぐに見る事が出来る。</li> <li>・知りたいと思っていた事を学べた。</li> <li>・好きな時間に好きな講座を見られるので様々な人のニーズに合っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・eラーニングが大学だけでなく生涯学習の場面でも活用されている事を初めて知った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知度が増せば利用者は増える工夫が必要。</li> <li>・インターネットの普及に伴い、今後人々の生活と密接に関係していく。</li> </ul>	
18	男	22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットで公開すると外国にまで伝えられる。</li> <li>・本来の形を保とうとして廃れてしまうのであれば、時代に生じたニーズに合った形に変えていくのも継承の一つの方法。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師に質問も出来るので積極的に参加出来る。</li> <li>・京都について簡単に学べる。</li> <li>・各動画の時間が短く内容も細分化されているので、忙しい社会人でも積極的な参加が可能。</li> <li>・講義内容が文字で表示されているので幅広い人々を受講対象に出来て、生涯学習に適している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の趣味に合った講座が充実している。</li> <li>・詳しく深く学べるので個人に合った学習が出来る。</li> <li>・専門家による講座なので説明が詳しい。</li> <li>・取り扱われている範囲が広いので積極的に学べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・このような公共のサイトの利用は初めて。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・府民により浸透させる為に、デジタルテレビのデータ配信にのせてテレビでも見られる様にすることも一つの方法。</li> </ul>
19	女	21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映像での配信はその地域に行かなくても各地の文化を伝える事が可能。</li> <li>・調理方法まで細かく記されているので「作ってみよう」という気持ちになる。</li> <li>・文化を後世に伝えていく為には実践が重要なので実際に試せる機会となる動画は有意義。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師に質問も出来るので積極的に参加出来る。</li> <li>・京都について簡単に学べる。</li> <li>・各動画の時間が短く内容も細分化されているので、忙しい社会人でも積極的な参加が可能。</li> <li>・講義内容が文字で表示されているので幅広い人々を受講対象に出来て、生涯学習に適している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の趣味に合った講座が充実している。</li> <li>・詳しく深く学べるので個人に合った学習が出来る。</li> <li>・専門家による講座なので説明が詳しい。</li> <li>・取り扱われている範囲が広いので積極的に学べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動画の教材を用いた学習は初めて。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校でも取り入れる事が可能。</li> <li>・不登校の児童にも対応出来る。</li> <li>・児童の学習意欲を高められる。</li> </ul>
20	男	21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土料理は先人の知恵の塊であり、その地域の深さが表れている。</li> <li>・郷土料理の継承は日本の文化を守るためにも大切。</li> <li>・作ってみたいと思わせる工夫が必要。</li> <li>・若者や女性にも魅力が伝えられるよう試食出来るイベント等の工夫が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリックするたびにセキュリティに引っかかるのが厄介。</li> <li>・トップページが色鮮やか。</li> <li>・京都らしい。</li> <li>・動画の表示の仕方がそれぞれ違うのが気になる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各動画の編集の仕方に差が有る。</li> <li>・講座が独特。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・このような形では初めて。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な分野の知識を増やせる講義を開講して、そこから様々な分野に派生する事が可能。</li> <li>・目的を定めずに「何か面白い講義ないかな」という気持ちで検索するのが主流。</li> </ul>

表4 e-ラーニング回答（四条センター）

	実施日	性別	年齢	居住地	職業	Q1 携帯電話は使 用しますか	Q2 携帯電話で メールを しますか	Q3 携帯電話で インターネッ トをしますか	Q4 パソコンは 利用しますか	Q5 パソコンで メールを しますか	Q6 パソコンで インターネット をしますか	Q8 e-ラーニン グという言葉 を知っていま すか	Q9 パソコンでe -ラーニング をしたことが ありますか	Q9 e-ラーニングを どう思いますか
1	2010/10/12	男性	68歳	京都市 西京区	無職	しない	しない	しない	ほとんどしな い	しない	しない	聞いたことな い	ない	特にない
2	2010/10/12	男性	80歳	京都市 伏見区	無職	する	する	する	する	しない	しない	知っている	ない	特にない
3	2010/10/12	男性	62歳	大阪府 交野市	無職	する	しない	しない	しない	しない	しない	知らない	しない	我々の年代にとっては家か ら出る事が歩く事になり健 康に害がり、楽しみにもな りません。私の場合は家でじ っとしている事や、家で学ぶ 事は苦痛です。
4	2010/10/12	女性	72歳	京都市 北区	無職	しない	しない	しない	しない	しない	しない	知らない	ない	新しい物にはすぐ飛びつく 性格で携帯はすぐに買いま したが、私は活字を読む年 代のせいかパソコンで学習 というのは考えられません。
5	2010/10/13	男性	69歳	京都府 長岡京 市	無職	する	する	しない	する	しない	しない	知らない	ない	私は一番に健康の事を考え ますのでパソコンで学習す るまで勉強しようとは思 いません。
6	2010/10/13	女性	65歳	京都市 西京区	無職	する	しない	しない	しない	しない	しない	知らない	ない	私は外に出たいので、パソ コンを使って勉強をしたい とは思いません。私にとっ ては健康の為に、朝起き て外出の仕度をして外に出 て駅まで歩くという事、出 歩く事が大事です。
7	2010/10/13	男性	74歳	大阪府 高槻市	無職	する	しない	しない	しない	しない	しない	知らない	ない	目が疲れそうだとという事と、 夜更かしをするのはめになり そうだとすると、パソコン 相手だと偏った内容の勉強 にならないかという懸念 があります。
8	2010/10/14	男性	70歳	京都市 中京区	不動産 賃貸業	する	しない	しない	する	する	する	聞いたことは ある	ない	パソコンは20年来使用し ています。今はインテー ネットも活用していますの でパソコンを通じて学習す るという事は概念としては 理解できますが、いざ実行 してみると驚かないと思 います。私は身柄を拘束され てこそ勉強だと思います。 古典的かもしれませんが、 まず教室に来る事から勉強 は始まるのではないでしょ うか。パソコンは情報を得 る為に活用する事はあつ ても勉強の道具にはなりませ ん。
9	2010/10/15	男性	75歳	京都市 右京区	無職	する	しない	しない	しない	しない	しない	知らない	ない	私は、パソコンは持たない 方針です。と言うのは、私 は暮を趣味にしているの ですが、今はパソコンを利用 して世界中の人と対戦する 事が可能です。そうすると 目を悪くしたり昼夜関係な くのめりこむ恐れがありま すので、自製の意味でパソ コンを持たない事にしてい ます。
10	2010/10/15	女性	72歳	京都市 南区	京廷衣 装研究 家	する	しない	しない	しない	しない	しない	知らない	ない	特にありません。
11	2011/1/21	男性	61歳	奈良県 橿原市	無職	する	する	しない	しない	しない	しない	知っている	ない	今はネットオークションや eバンク等インターネット 社会になっていますが、全 てがそこに取り込まれた社 会というのは如何なものか と思います。生の講義の良 い所は、学んでいるという 実感が感じられる事です。 私が様々な講義やセミナー を受講しに行くのは講義堂 の雰囲気が好きだからです。 また、講義中に現物資料を 見せてもらう事があります が、e-ラーニングだとそ ういった事もできないと思 います。